



学校長だより

No. 8 (平成28年12月22日)

今しばし しばしとかぶる ふとんなり！



季節は秋から冬へ着実に移り変わっていき、朝、布団から出るのがつらい時期になりました。地球温暖化とはいえ、南国土佐とはいえ、冬はやはり寒い。高知に移り住んだ当初は、なんてあったかいところなんだと感動すら覚えたのですが、すっかり体は慣れてしまったようで、寒がりな私にとっては、どこにいても冬はつらい季節のようです。

さて、平成28年もあと少しになりました。皆さま方におかれましては、今年申年はどんな年だったでしょうか。来年は酉年ですから、大いに飛翔したいところですが、そもそも酉とは「ニワトリ」のことだそうです。決まった時間に必ず鳴く鶏は、時を知るために飼われていたとも言われ、身近でありながら、太陽を呼ぶ力のある神の使いとして敬われていたとのこと。今ではインフルエンザウィルスでこの時期にありがたくない話題になることが多いようですが、なにはともあれ、この季節から感染症など、健康にはくれぐれも注意していただき、どうか、よいお年をお迎えください。



成長の足跡！

2学期は大きな行事が各学校で目白押しでしたが、学習発表会のとりは11月25日の土佐希望の家分校でした。一人一人に活躍の場があり、その活動がストーリーに溶け込む演出がしっかりとなされ、皆が感動の拍手を送りました。この光景は他の学校でも同じでした。指導者はきっとやってくれと児童生徒に期待をし、児童生徒はその期待に応えようと、懸命に努力し力を発揮する。これを教育心理学ではピグマリオン効果といい、1964年アメリカで実証されたものですが、わが国では師弟愛として古くから当たり前のよう実践されてきたことです。やはり子供の成長に愛情は欠かせませんね。

先生も頑張っています！

これまで児童生徒の皆さんの活躍について、何度も紹介をさせていただきました。今回は学校の教職員の頑張りをお伝えしたいと思います。

○土佐の教育実践表彰（優れた教育実践を表彰）

高知若草養護学校本校	小川 和美 先生 谷澤 朗 先生
子鹿園分校	川村 史晃 先生
土佐希望の家分校	川崎 朋子 先生

○勤続表彰（長年の勤務により教育の充実に貢献）

高知若草養護学校本校	中島伸一郎 先生、 幸崎 美紀 先生（寄宿舎） 門田 正子 先生（寄宿舎）
子鹿園分校	片岡 貴美 先生
土佐希望の家分校	窪内真由美 教頭 竹崎 幸和 先生



中国四国地区の肢体不自由特別支援学校の現状について

今年度、中国四国地区の肢体不自由特別支援学校の校長先生方と会う機会に恵まれ、それぞれの県の実情を知ることができました。気付いたことを何点かまとめてみました。

○学校名について

名 称	県 名
〇〇養護学校	高知県、香川県、島根県、鳥取県
〇〇特別支援学校	広島県、愛媛県
〇〇支援学校	岡山県、徳島県、山口県

特別支援学校制度になり、校名を変更する自治体が全国で年々増加しています。

○複数の障害種別を対象としている学校

対応する障害	校数及び県名
肢体・知的障害	5校(岡山県4校、愛媛県1校)
肢体・病弱	4校(岡山県、鳥取県、愛媛県、島根県)
肢体・知的障害・病弱	2校(山口県、徳島県)
肢体・聴覚・知的障害・病弱	1校(山口県)

中四国の肢体不自由の単独校（本校）は、本県を含め8校で、他の障害部門を置く併置校が年々増加しています。

上記以外にも、寄宿舎入舎児童生徒の激減、教員による医療的ケアの実施における課題など、それぞれの県の実情や課題に大きな違いがありました。まさしく、所かわれば品かわるですね。

